

研究指導教員の決定と研究指導の方法 <博士前期課程（生命機能化学専攻）>

（1）研究指導教員の役割

- ① 研究指導教員は、学生の希望する研究課題、教員の専門分野、指導環境などを考慮し、学生の同意を得た上で研究課題を決定し、研究指導を行う。
- ② 研究指導教員は、研究指導に加え、学生の教育・研究に必要な授業科目について、シラバス等を参考にして個々の学生の指導を行う。
- ③ 研究指導教員は、学生の希望に基づき学生ごとに1名を決定し、必要な場合は副研究指導教員を設ける（研究指導教員が助教の場合は、必ず講師以上の副研究指導教員を設ける）。

（2）副研究指導教員の役割（副研究指導教員を設ける場合）

- ① 副研究指導教員は、研究指導教員と協力して学生の研究指導を行う。
- ② 副研究指導教員は、研究指導教員の指導に関する学生からの相談に応じ調整を行う。
- ③ 副研究指導教員を設ける場合は、学生ごとに1名または2名とする。

（3）研究指導教員の決定プロセス

- ① 学生募集要項記載の教員一覧等を参考に、出願前に研究指導を希望する教員との面談等を行い、出願時に希望する研究指導教員を選択する。
- ② 入学予定者は、原則として入学までに研究指導教員予定者を決定しておく。
- ③ 入学後、専攻教授会において研究指導教員を正式決定する。

（4）研究指導の方法 ※1

本専攻における研究指導の方法は、以下の①～⑥のとおりである。研究指導教員は学生の研究指導を行うにあたり、この研究指導計画を明示し、毎年度の初めに、学生の1年間の研究計画についての打合せを学生と十分に行った上で、以下に沿って、研究指導を行うものとする。学生の研究指導計画の詳細は、学生の研究計画を確認した上で作成し、明示する。

① 研究計画の立案（1年次）

- (1) 学生は、決定した研究課題に関して先行研究の整理、仮説の設定を行い、研究指導教員とともに研究計画を立案する。
- (2) 研究指導教員は、学生が研究計画を立案するに当たって、研究方法・文献調査方法・文献読解方法などを指導する。
- (3) 研究指導教員は、学生が記入し提出した研究指導計画書の研究計画に基づき、課程修了までの研究指導計画を1年ごとに記載し、学生と副研究指導教員に明示する。
- (4) 学生と研究指導教員は、協議のうえ「研究指導計画書」を作成し、研究科長へ提出する。

② 研究の遂行（1年次～2年次）

- (1) 学生は、研究計画に従って研究を遂行する。研究の遂行にあたり、研究方法の確立、予備実験、調査等を行う。次いで、決定した研究方法にて研究課題に取り組み、データ収集・解析等を行い、研究結果をまとめる。
- (2) 研究指導教員は、研究の進行を確認しつつ、実験・調査等の手技の指導やデータ解析の指導等を行い、研究結果をまとめさせる。
- (3) 研究指導教員は、必要に応じて、研究指導計画の見直しを行い、毎年度の初め、研究指導計画を学生と副研究指導教員に明示する。
- (4) 研究指導教員は、研究の進捗状況について確認し、研究の進捗状況に応じた指導を行う。

③ 研究経過の中間報告（1年次 10月以降）

学生は、生命機能化学研究プレゼンテーションの授業において研究経過を報告する。

④ 修士論文の作成（2年次）

(1) 学生は、研究成果をもとに修士論文をまとめる。

(2) 研究指導教員は、修士論文の構成や図表の作成、文献の整理・引用等、論文のまとめ方を指導する。

⑤ 修士論文の提出・発表（2年次）

学生は修士論文を指定した期日までに提出し、公開の発表会で論文の内容を発表する。

⑥ 研究指導報告書の提出（修了時）

研究指導教員は、「研究指導報告書」を作成し、研究科長に提出する。

※1 （ ）内の年次・月は春入学の場合の目安。秋入学の場合はこの日程に準ずる。